

# クラウド基盤における 物理サーバ障害時影響テナント特定方法の検討

USOL北海道株式会社

細川 天

takashi.hosokawa@usol.co.jp

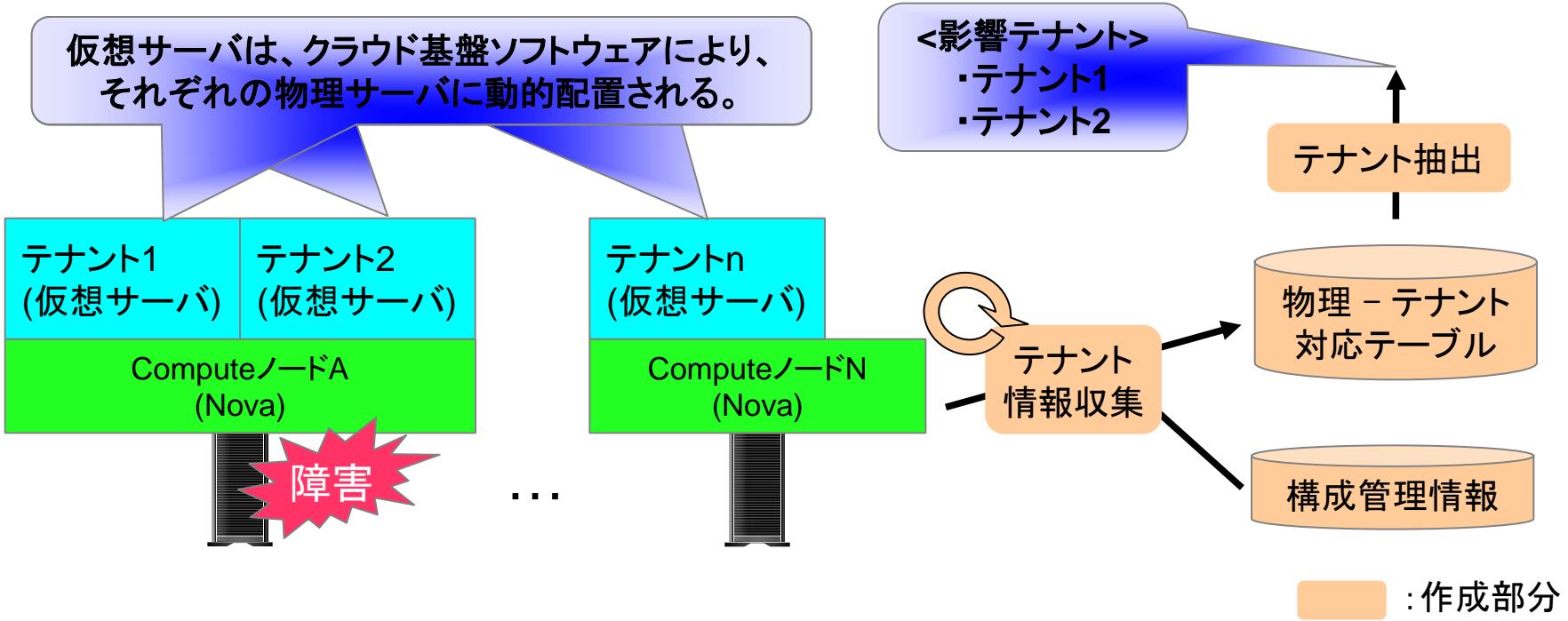
## IaaS運用上の問題点

物理サーバ上に、クラウド基盤ソフトウェア (OpenStack)を用いて、仮想サーバを動的配置した場合に、物理サーバ障害が発生した場合に影響があるテナントを特定したい。

## 手法・ツールの適用による解決

物理サーバ上に配置されている仮想サーバのマッピング情報を、物理-テナント対応テーブルとして作成し、物理サーバ障害時には、構成情報から影響テナントを特定できるようにする。

## 物理サーバ障害時影響テナント特定



## 実施内容

1. サーバ起動時と、ポーリングにて、テナント情報収集アプリケーションによって、テナント情報、サーバ情報、Computeノードステータス情報を収集。
2. Computeノードステータスが異常となった場合に、そのComputeノードに乗っている仮想サーバのテナント名を抽出する。

## 評価・課題

[評価]  
 仮想サーバが動的配置される場合でも、影響テナントを特定することができた。

[課題]  
 OpenStackに手を加えずに、外付けする形態でテナント情報を収集するために、Pull型収集方式としたが、Push型収集方式と比較して、仮想サーバ形態に制約がある。OpenStackの動向によっては、Push型の実装も可能となるため、今後もOpenStackの動向の見極めが必要となる。